

第5部 研究プロジェクトの記録

- 1 研究プロジェクト開始時の記録
- 2 勉強会記録
- 3 研究プロジェクト従事者一覧

1 研究プロジェクト開始時の記録

(1)「プロジェクトの開始について」

プロジェクトの開始について

副学長・経営学部教授

建学史料室兼務室員

増田 大三

平成25年10月1日に教員10各人（増田、法学部上崎哉、経済学部藪下信幸、経営学部稲葉浩幸、文芸学部鈴木拓也・酒匂康裕、教職教育部富岡勝、短期大学部田窪直規・井田泰人、九州短期大学部三木一司）は建学史料室の兼務発令を受け、研究プロジェクト「近畿大学の大学アーカイヴズと校史関係史資料に関する調査・研究」に従事することになりました。

11年後の平成37（2025）年に本学は創立百周年を迎えます。この百周年に向け、校史に関わる史資料を収集していく必要が一層高まっていくことが予想されます。

すでに本学では文書保存規程によって「校史編纂の参考となる文書・資料で重要なもの」を永年保存することが定められ、校史関係史資料を保存する基本的な仕組みが作られています。

今後は百周年に向けて、この仕組みを活かしながら、各部署にすでに保存されている史資料に関する全学レベルの情報共有や、どのような文書が校史編纂にとって重要なのかに関する具体的検討が行われ、校史関係の史資料の適切な保存・整理・活用が進められていくことが求められるようになると思われます。

また、東大阪キャンパス内の本館などの建て替え工事に伴って、貴重な校史関係史資料が失われないように努めていくことも期待されるでしょう。

こうした状況に鑑み、本研究プロジェクトでは、校史関係史資料の収集・整理や、将来的な大学アーカイヴズ（校史関係史資料を含む保存年限を過ぎた学内文書を適切に整理・保存・公開する機関）に関する基礎的な調査・研究を実施していきます。

具体的な活動としては、まず主要課題として、学内各部署のご協力を得ながら学内の史資料の見学調査や整理方法の検討に取り組みます。

さらに、校史関係の学外資料の調査・収集、学外のアーカイヴズの訪問調査、学内公開研究会の実施なども計画しています。

本誌において、調査・研究の進行状況をきめ細かく報告していきたいと思えます。本学に関係するすべての皆様のご理解とご協力を心からお願いいたします。

（『A Way of Life —Seko Koichi— 世耕弘一先生建学史料室広報』第17号、2014年3月、8頁）

(2) 研究プロジェクトの予算案

建学史料室	研究代表者	担当者	

平成26年度 近畿大学の大学アーカイブズと校史関係史・資料の収集・整理に関する調査・研究
 使用内訳書

平成25年 11月15日

所 属	経 営 学 部	職 名	教 授	氏 名	増 田 大 三 印
交付額	¥1,200,000	研究課題	近畿大学の大学アーカイブズと校史関係史・資料の収集・整理に関する調査・研究		
支出科目	内 容				金額(単位千円)
材 料 用 品 費	文書ファイル 40冊×0.7千円=2,8万円				28
新 聞 図 書 費	大学アーカイブズ関係文献 および近畿大学史に関する古書				230
図 書 支 出 II	なし				0
用 品 費	(品名、単価×数量)1点5万円以上 20万円未満 なし				0
教育研究用機器備品費	(品名、単価×数量)1点20万円以上 なし				0
印 刷 複 写 費	研究成果報告書(120頁、400冊) 24万円 大阪府公文書館等での資料複写費 3万円				270
運 搬 料	研究成果報告書郵送費(200部×350円) 7万円				70
報 酬 謝 礼 金 支 出	学内研究会(90分2名)および全学SD講演会(90分2名)の学外講師謝礼金(60分1名あたり3万円×1.5×2×2)及旅費(約4000円×4) 20万円				200
雑 支 出	講演会テーブル起こし 2時間×3.25万円=6.5万円				65
国内旅費交通費	京都 京都大学調査 1日、1回、5名×0.5万円=2.5万円 京都 大学アーカイブズ関連の研究協議会・学会の研究大会等への参加 1日×2回×5名×0.57万円=5.7万円 兵庫 神戸女学院大学調査 1日×1回×5名×0.3万円=1.5万円 大阪 大阪府公文書館などへの資料調査 1日×1回×10名×0.3万円=3万円 九州短期大学から東大阪キャンパスの本研究会への出席 1泊2日×5回×1名×4.2万円=21万円				337
諸 会 費	なし				0

2 勉強会記録

(1) 第1回勉強会（平成25年11月11日）

日時：2013年11月11日18時10分～19時10分

会場：東大阪キャンパス本館3階第2会議室

出席者（敬称略）：田中栄二、西尾さかえ、西村広光、中村佳嗣、中村雅行、伊東徹、澤田和典、奥埜綾子、木村道子、荒木康彦、増田大三（司会）、鈴木拓也、酒匂康裕、富岡勝、井田泰人、三木一司、稲葉浩幸（記録）、藪下信幸（記録）

配布資料

資料1 勉強会の進め方について（提案）

資料2 平成26年度予算使用内訳書

資料3 100周年に向けた仮タイムテーブルa案

資料4 世耕弘一先生ドイツ留学90周年記念史料展示会・講演会（ご案内）

資料5 平成25年度建学史料室名簿

資料6 『麻布中学校・高等学校紀要』創刊号資料

資料7 『日本史攷究』第35号資料

勉強会の議事開始に先立ち、九州短期大学の三木一司へ辞令交付が行われた。また、副学長の増田より、これまでの研究会での成果や現在の取組み、さらには今後の史・資料収集整理に関する展開等について説明がなされた。

議題1 勉強会のテーマと主な活動について

まず、今年度の研究テーマとして「近畿大学の大学アーカイヴズと校史関係史・資料の収集・整理に関する調査・研究」と決定し、次に今年度の研究活動について資料1に基づき富岡が説明を行った。具体的な研究活動は以下の4点である。

- ①校史関連の学内資料収集・保存状況の現況調査
- ②校史関連の学外資料の収集・調査（公文書・新聞・雑誌など）
- ③資料保存や学内文書管理などに関する学外訪問調査
- ④学内研究会等の開催（2014年）

これらの活動を進めていくに当たり、特に①については図書館との連携が必要であること、また、資料収集を行っていく際に保管場所を確保する必要があることなどが今後の検討課題

として指摘された。なお、それぞれの研究活動の担当者については、次回の勉強会にて決定していくこととなった。

議題2 研究成果の公表手段について

現在、建学史料室広報が16号まで発行されており、今後も建学史料室広報への投稿を基本に研究成果を公表していくこととなった。さらに、建学史料室広報を大学のWEBサイトにおいて公開することなどが提案された。

議題3 平成26年度予算について

資料2に基づき、来年度予算案についての説明が行われた。他に予算を申請したい場合には富岡まで連絡するように報告がなされた。

議題4 100周年を見据えた仮工程表について

資料3をもとに、次回の勉強会に向けて改訂版を作成していく予定とのことであった。

さらにその他の議題として、資料6および資料7の事例紹介と富岡による関西教育学会第65回大会（2013年11月16日和歌山大学）での研究報告の案内があった。

また、中村より今年創立50周年を迎えた新宮高等学校での取組みとして、記念式典の開催、記念誌の作成、中学校での自校教育について報告がなされた。

最後に、荒木より資料4にもとづいて「世耕弘一先生ドイツ留学90周年記念史料展示会・講演会」についての案内があり、基礎ゼミなどにおける自校教育の場として活用して欲しいとの説明がなされた。

(文責：稲葉 浩幸・藪下 信幸)

(2) 第2回勉強会（平成25年12月11日）

日 時：2013年12月11日 15:00～16:00

場 所：本館4階第3会議室

出席者：西尾さかえ、西村広光、中村佳嗣、中村雅行、伊東徹、澤田和典、寺尾隆、
木村道子、荒木康彦、田窪直規、稲葉浩幸、富岡勝、鈴木拓也、藪下信幸、
上崎哉（司会）、井田泰人（記録）

議題1 学内の史・資料調査と学外訪問調査について

2013年12月から2014年3月の計画案(1)～(4)が富岡から説明された。

(1)2013年12月中におこなわなければならないこととして、①図書、消耗品などの選定・購入、②第4回研究会と総務部の資料調査の日程調整を行うことが確認された。

(2)2014年1月の第4回研究会では、総務部の史資料調査の手順について仮リストの作成方針、部署ごとのリスト、作成方法について、学内機構変遷図の確認、学外訪問調査(立命館大学)での質問項目などを考えるなど準備をすることとした。なお、富岡から余力があればもう1校訪問したいという希望があった。

(3)2014年2月下旬に第5回勉強会を開き、少し時間を多めに取り、総務部史資料の仮リスト作成作業、調査行い、勉強会を開くこととした。富岡から仮リストは、パソコンでも良いが、カードで記録し、作業を進めながら課題・方法を発見してはという意見が出た。

また、立命館大学の調査、日帰りで1.5時間ほどのインタビュー、資料の保存状況、施設見学を計画することとした。

(3)2014年3月には、第6回勉強会を実施することに決した。第5回同様、少し長めの時間をもって勉強会と学内にいる写真資料の調査行う予定も発表された。

以上のことについて保存期間の過ぎた資料の保管、廃棄するか保管するかの判断、アーカイブズの資格、専門家の有無についての質問が出た。また各部署、施設に資料の保存、廃棄書類が出た場合は一旦建学室に連絡をしていただくよう声をかけるという意見が出た。

議題2. 今年度の研究・調査と役割分担について

研究活動1「校史関連の学内資料収集・保存状況の現況調査」、研究活動2「校史関連の学外資料の収集・調査」、研究活動3「資料保存や学内文書管理などに関する学外訪問調査」、研究活動4「学内研究会等の開催」についての具体的内容の提案と役割分担を決めた。

研究活動1について、総務部・管理部所蔵の学生部に関する資料を優先的に収集、確認、保管することにした。また、本部キャンパスにおいて学生部に関する資料については西村、広報、校友会については澤田、管理部については伊東、図書館については寺尾、通信教育部については中村が保存期間を過ぎた資料の確保を行うことに決めた。

研究活動2については、公文書館の調査行うことが富岡から発表された。

研究活動3については、立命館大学への訪問調査が2014年2月頃に行うこと(議題1の(3)参照)が確認された。

研究活動4に関しては、学内研究会等の開催を2014年中に行うことが発表された。具体的には、これまでの結果概要を建学史料室広報で紹介し、研究調査報告書で録音からの書き起こしなどの詳細を報告することとし、建学史料室と総務部内で研究会を2014年5月頃に行い、さらに秋、冬を目途に全学SDで実施することが提案された。研究会の内容としては次の案1～

3が出た。

案1 校史関係資料の収集・整理と大学沿革史編纂に関する講演会

(京都大学大学文書館西山伸氏など)

案2 校史関係資料の収集・整理に関する公開研究会

(出版文化社 大阪ヘリテージサービス事業部 アーキビスト 小根山美鈴氏など)

案3 学内文書整理に関する公開研究会

(一般社団法人ヒューリット・マネジメント・フォーラム石井幸雄氏など)

また、荒木から講演者の紹介・推薦について次回検討してはどうかと意見がでた。

なお研究活動2～4についての主担当者を12月中に決めて準備することとした。

議題3. 建学史料室広報への投稿記事のメ切りについて

次号のA way of lifeの締め切りを12月24日とし、①増田代表名の記事「大学アーカイブズと校史関係史・資料の収集・整理に関する調査・研究」（仮題）を1000字程度、②第1回勉強会開催報告、稲葉・藪下が、③第2回勉強会開催報告、井田が100字程度、④各地のアーカイブズ紹介1（滋賀大学経済学部）、富岡が800字程で執筆、写真1枚を掲載することに決めた。なお④では他大学の見学、調査を通じて近畿大学がどのように工夫していくのかを考えいく内容にし、デジタルアーカイブの充実、資料の紹介などをまとめていくこととした。

報告事項

富岡が次の報告をした。①来年度の予算案、②関西教育学会11月16日発表、③全国大学史協議会西日本部会第4回研究会（於・エル・ライブラリー）参加。その他、本年度購入予定の図書・物品の手続きは12月中、1月に申請することが発表された。

(文責：井田 泰人)

(3) 第3回勉強会（平成26年1月20日）

日 時：2014年1月20日（月）

18時10分～19時15分

会 場：東大阪キャンパス 本館4階第3会議室

出席者：西尾さかえ、西村広光、寺尾隆、中村雅行、伊東徹、澤田和典、奥埜綾子、
(敬称略) 木村道子、荒木康彦、増田大三、鈴木拓也、酒勾康裕（司会）、富岡勝、
井田泰人、三木一司（記録）

欠席者：田中栄二、中村佳嗣、上崎哉、藪下信幸、稲葉浩幸、田窪直規

配付資料

資料1 建学史料室 第3回勉強会配付資料 (P1～P8)

資料2 公文書の専門家 日本でも資格認定始まる NHKニュース

「日本アーカイブズ学会登録アーキビスト」資格認定制度創設の経緯について

資料3 建学史料室広報誌 No. 17

資料4 2013年度「近畿大学の大学アーカイヴズと校史関係史資料の収集・整理に関する調査・研究」購入図書案

資料5 小川智瑞恵「所在資料の現状調査の方法論 ー東京大学大学史史料室の体験」

『レコードマネジメント』第63号、記録管理学会、2012年

議題 (1)

1. 第1回勉強会 (別紙)・第2回勉強会議事録の確認

資料1 (P5～P8) により、第1回・第2回勉強会記録の確認を行った。プロジェクトの活動報告として広報誌に毎回の勉強会の内容を約100字程度で紹介すること、詳細な勉強会の記録については報告書に掲載することとした。

2. 2013年度及び2014年度の分担について (確認・調整)

資料1 (P2) にある研究活動1から4の主担当、副担当などについて富岡から説明があった。研究活動の担当について、事務系職員と共同してプロジェクトを進めるため所属課に関わった役割分担を行った方がよいとの意見が出され、次回の勉強会までに副担当に分担することに決定した。また、各研究活動の担当者は2013年度から14年度にかけて調査・研究を進め、その成果を報告書にまとめること、調査・研究活動の経過報告などを随時広報誌に掲載することが確認された。

3. 麻布学園中学・高等学校のアーカイヴズへの取り組みについて

資料1 (P2～P4) により、文献資料 a、資料 b (第1回勉強会にて配付済み) についての報告が富岡から行われた。今後も勉強会において関連文献の紹介を継続的に行っていくことが提案された。

4. アーキビスト資格制度 (日本アーカイヴズ学会) について

資料2 をもとに、アーキビスト資格認定制度が創設された経緯やその実施に関する報告が井田から行われた。

5. 勉強会関連の広報誌記事の確認

資料3により広報誌記事内容の確認を行った。広報誌の校正スケジュールについて西尾から説明があり、校正については建学史料室まで連絡するよう依頼された。また、広報誌に他大学のアーカイブズを紹介することは、情報交換などにおいて有益であることが申し添えられた。

6. 次回（第4回）勉強会について

- ・第4回勉強会は2月下旬に開催する方向で調整を進めることが富岡から報告された。
- ・配付論文の紹介を三木が担当することに決定した。
- ・立命館史資料センターの調査を予定していることが報告された。

7. その他

資料4の購入図書案について富岡から説明があり、『アーカイブズ学研究』のバックナンバー全巻を中心に、アルバム、校友名簿などを購入する予定であることが報告された。必要な資料などがあれば、1月末までに富岡へ申し出ることになった。

議題（2） A Way of Life 17号の編集について

資料3をもとに西尾から校正などについての説明が再度行われた。広報誌17号は3月から4月に発行を予定していることが報告された。続いて、木村から執筆者の氏名、所属の表記について意見が出され、今後は「〇〇学部・建学史料室研究員 〇〇〇〇」と統一することで合意した。そして、17号の目次について、記事内容を統一した紙面構成にした方がよいとの指摘があり、従来からの編集のあとにプロジェクトに関する記事を掲載するという意見でまとまったため、17号の目次案を変更することに決定した。

議題（3） その他

- ・勉強会の記録について、出席者と欠席者を表記する必要性、記録の分量などについて意見交換を行い、記録の分量については現状でよいとの意見がだされた。
- ・寺尾から3月末日で退職し、4月から国立国会図書館で勤務することが報告された。

（文責：三木 一司）

(4) 第4回勉強会（平成26年3月3日）

日時：2014年3月3日（月）

17時00分～18時05分

会場：東大阪キャンパス 本館3階第1会議室

出席者：田中栄二、西尾さかえ、西村広光、中村佳嗣、寺尾隆、中村雅行、伊東徹、澤田和典、奥埜綾子、木村道子、荒木康彦、増田大三、鈴木拓也、富岡勝、田窪直規、井田泰人、三木一司、稲葉浩幸（司会）、上崎哉（記録）

欠席者：酒匂康裕、藪下信幸

配布資料

資料1 建学史料室 第4回勉強会配布資料（P.1～P.7）

資料2 第4回勉強会 文献報告

小川智瑞恵「所在資料の現状調査の方法論—東京大学史史料室の体験—」

『レコード・マネジメント』第63号、記録管理学会、2012年

資料3 建学史料室広報誌 No.17

資料4 学内史資料現況調査 整理票（第1版 案a）

資料5 「立命館 史資料センター」（仮称）設置について

—2013年度からの「立命館 史資料センター準備室」による開設準備—

資料6 嶋田典人「学校アーカイブズの地域保存と住民利用」

資料7 城戸八千代・三浦寿代「尼崎における学校資料とレファレンス」

資料8 「日本アーカイブズ学会登録アーキビスト」申請要項

資料9 石井幸雄他「大学における文書管理に関する基礎的研究—関西地区における大学を中心に—」『レコード・マネジメント』第63号、記録管理学会、2012年

議題

1. 第3回勉強会議事録の確認

資料1（P.6～P.7）により、第3回勉強会記録の確認を行った。前回の議論を踏まえ、今回の議事録から欠席者についても記載したことが報告された。

2. 2013年度及び2014年度の分担案について（修正案）

資料1（P.2）により、富岡から分担案の修正案の提案がなされた。主な修正箇所は、事務職員にも調査・研究協力者として加わってもらい、教員による調査・研究に対するアドバイスなどを行うことである。審議のうえ、修正案が承認された。

3. 文献報告（小川智瑞恵「所在資料の現況調査の方法論—東京大学史史料室の体験—」）

資料2をもとに、三木から文献報告が行われた。討論では、全体量を書架延長で算出する調査方法が一般的であることが確認された。また、田窪よりから4階層で資料を整理するのが一般的であるということが示された。

4. 学内校史関連資料現況調査の方法について

資料1 (P. 3～P. 4) により、富岡から学内校史関連資料現況調査の実施案について説明がなされた。併せて、「学内史資料現況調査 整理票（第1版 案a）」の提案がなされた。整理票案については、専門家の意見を踏まえたかどうかという意見も出されたが、何点かの細かな修正を施した上で、この案を採用することになった。

5. 立命館調査（2月26日）の簡単な報告

資料5により、富岡から「立命館 史資料センター」（仮称）の設置に関する簡単な報告がなされた。立命館大学では、100年史編纂事業終了後、編纂に用いられた資料を散逸させないこと及び資料の利活用による学園創造という趣旨のもと、設置が進められているということであった。

6. 日本アーカイブズ学会研究集会「地域の中の学校資料とアーカイブズ」（2014年2月15日） 参加報告

資料6～8により、富岡から上記研究集会に関する参加報告がなされた。最近では、公文書以外の学校資料に関する関心が高まっているということで、学校単位では困難なアーカイブズ設置の取組や学校が統廃合された際の資料の管理等について情報提供がなされた。

また、日本アーカイブズ学会登録アーキビストの申請についての案内が行われた。

7. 次回（第5回）勉強会での論文等照会について

次回（第5回）勉強会では、資料9を講読することが提案され了承された。報告者については、富岡が後日相談の上調整することとされた。

8. その他

富岡から、図書購入に関する報告がなされた。予定していた本のうち、一冊は今回は購入することができなかった。また、複数冊の購入が難しかったものについては、さし当り一冊の図書を購入したことが報告された。

勉強会終了後、「すぎ乃」東大阪店に移動し、勉強会開始後初めての食事会が開催された。教職員のなかには勉強会以外の場では接点がなかったものも多かったかと思われるが、教職員の垣根を超えた親睦がはかられた。今後も定期的に食事会を開催することが凡そ同意された。

(文責：上崎 哉)

(5) 第5回勉強会 (平成26年5月17日)

日時：2014年5月17日(土) 14時～15時

会場：東大阪キャンパス 本館4階第3会議室

出席者：田中栄二、西尾さかえ、伊東徹、近藤明子、木村道子、荒木康彦、増田大三、
上崎哉、藪下信幸、鈴木拓也(記録)、富岡勝、田窪直規(司会)、井田泰人

欠席者：西村広光、中村佳嗣、中村雅行、澤田和典、奥埜綾子、稲葉浩幸、酒匂康裕、
三木一司

配付資料

資料1 建学史料室第5回勉強会配付資料 (P. 1～P. 4)

資料2 第4回勉強会議事録

資料3 「校史関係史資料に関する現況調査の実施について(要望)」

・理事長・学長宛要望書

・別紙1 建学史料室研究プロジェクト「近畿大学の大学アーカイヴズと校史関係史資料の収集・整理に関する調査・研究」の学内資料現況調査の実施案

・別紙2 建学史料室研究プロジェクト「近畿大学の大学アーカイヴズと校史関係史資料の収集・整理に関する調査・研究」の役割分担

資料4 建学史料室広報誌学外発送先案(2014年5月17日段階)

資料5 学内史資料現況調査 整理票(第1版 案a)

資料6 文献報告(石井幸雄・浜田行弘・菅真城・松岡美佳「大学における文書管理に関する基礎的研究—関西地区における大学を中心に—」)

資料7 富岡勝「近畿大学の大学アーカイヴズ構築に向けた基礎的研究」(『関西教育学会年報』2014年3月31日投稿論文)

※資料4・5・6と資料7の第1頁はA3紙の両面に印刷。

議題

1. 第4回勉強会議事録の確認（資料2）
2. 2014年度の調査・研究の計画（案）について
資料1（P.2～4）に基づき、富岡より2014度の分担案および活動計画案が示され、確認と討論が行われた。主な内容は以下の通りである。
 - ①研究活動1「学内の校史関係史資料の現況調査」
 - ・「総務部・管理部所蔵のリスト化・調査・紹介」……6月頃から4回程度行い、12月の広報誌に活動報告を掲載。
 - ・「広報部の写真資料のリスト化・調査・紹介」……12月の広報誌に資料紹介を掲載。
 - ・「近畿大学の歴史に関する中央図書館蔵書の分析・紹介」……中央図書館でリストを作成済み。広報誌に記事を掲載する。→蔵書を管理する文書も調査すべきである。近大に関する古書があれば富岡に連絡のこと。
 - ・「校友会・学生部の史資料の残存状況の調査」……9月頃から4回程度行う。
 - ②研究活動2「学外の史資料調査」
 - 国立国会図書館、大阪市立図書館・文書館、東大阪市立図書館……田窪担当
 - 国立公文書館、大阪府立図書館・文書館……鈴木担当
 - 専門学校時代の資料（日本大学総合学術情報センターなど）……荒木担当
 - ③研究活動3「学外訪問調査」……2月に行った立命館の調査を広報誌に掲載。
 - ④研究活動4「学内研究会等」……次回勉強会までに原案を考える（富岡）。
 - ⑤調査・研究報告冊子……2015年1月末に原稿提出。
3. 建学史料室広報誌学外発送先案（2014年5月17日段階）について（資料4）
 - ・日本大学総合学術情報センター（所沢市）を追加することが了承された。
4. 学内校史関係資料現況調査の方法について（2）
 - ・資料1の「校史関連」は全て「校史関係」に訂正すべきことが荒木より指摘された。
 - ・整理票の修正案（案a）（資料5）を使用することが確認された。
 - ・理事長・学長宛要望書および別紙1・2（資料3）の内容を全員で確認した。
何か問題が見つかれば、5月19日（月）までに建学史料室に連絡のこと。
5. 文献報告（石井幸雄・浜田行弘・菅真城・松岡美佳「大学における文書管理に関する基礎的研究—関西地区における大学を中心に—」『レコードマネジメント』63、2012）
資料6に基づき、富岡より上記論文についての報告がなされた。関西地区の21大学でアー

カイブズが保存されており、大学の意識が高いことが明らかとなった。

6. 『関西教育学会年報』への投稿について

富岡より、「近畿大学の大学アーカイヴズ構築に向けた基礎的研究」を上記学術誌に投稿したことが報告された（全文は資料7。学内研究助成金を受けているので公表が必要）。

7. 次回（第6回）勉強会における文献報告について

朝日崇『実践 アーカイブ・マネジメント 自治体・企業・学園の実務』（出版文化社、2011年）の第3章「アーカイブを实践してみよう」の前半を読むこと、藪下が担当することが了承された。コピーは学内便で送付。

8. その他

- ・昨年度予算で購入した図書の到着状況（富岡研究室仮置き）が報告された。
- ・中央図書館寺尾隆氏の退職により、新たに近藤明子氏が参加することが紹介された。
（文責：鈴木 拓也）

（6）第6回勉強会（平成26年7月5日）

日時：2014年7月5日（土） 14時～15時

会場：東大阪キャンパス 本館4階 第3会議室

出席者：田中栄二、西尾さかえ、西村広光、中村佳嗣、伊東徹、近藤明子、木村道子、 荒
木康彦、増田大三、上崎哉、藪下信幸、稲葉浩幸、鈴木拓也、酒匂康裕（記録）、
富岡勝、田窪直規、井田泰人（司会）

欠席者：中村雅行、澤田和典、奥埜綾子、三木一司

配布資料

資料1 建学史料室第6回勉強会配布資料（P.1～P.6）

資料2 第5回勉強会議事録

資料3 文献報告 朝日崇『実践 アーカイブ・マネジメント 自治体・企業・学園の実務』（出版文化社、2011年）より「第三章 アーカイブを实践してみよう」の前半（96頁～125頁）

資料4 立命館調査（2014年2月）報告

資料5 建学史料室広報誌『A Way of Life』No.18（案）

資料6 本日の主な話題1. 2014年度の活動計画の別紙（関西学院大学学史編纂室）

資料7 本日の主な話題4. (4) の別紙（整理票）

資料8 本日の主な話題4. (5) の別紙（校史関係史資料のコピー希望について）

資料9 本日の主な話題8. その他(1) の補足資料（『近畿大学教育論叢』編集発行内規）

議題

1. 第5回勉強会議事録の確認（資料2）

2. 2014年度の調査・研究の計画（案）について（前回から一部修正・追加）

富岡より、学外訪問調査として、9月初旬頃に関西学院大学学院史編纂室、11月に甲南学園学園史資料室への訪問を予定していることが報告された。（資料6）

3. 文献報告

文献内容につき、藪下より資料3に基づき報告がなされた。アーカイブの具体的な作業手順内容について学び、後半（126頁～159頁）についても引き続き藪下が報告を行うことになった。

4. 総務部第1回現況調査の報告

本格的な調査の入り口として、2014年6月25日（水）13:30～15:00に西尾、富岡、藪下が総務部の協力の下、調査を行った。物品、写真、行事関係の史資料、公文書が確認でき、豊富な史資料が保管されていることが確認できた。今後、リスト化等の具体的な作業が必要になってくることが確認された。また、資料7、資料8の書式内容につき確認がなされた。

5. 学内校史関連資料現況調査の方法について（前回の内容に一部追加）

調査方法の手順（1）～（8）の流れを確認した。このうち、（1）主担当と建学史料室から、調査先部署の担当職員に連絡して調査手順・内容について打ち合わせを実施し、調査日時を決定することから、（3）その部署にある校史関係史資料の主な収蔵場所と大まかな所蔵状況の把握まで2～3週間かかることが報告された。また、重要文書の取り扱い方法について確認し、調査先との信頼関係を構築するまでは慎重に行う必要があることも確認された。

6. 立命館調査（2014年2月）の報告

資料4に基づき、酒匂より調査先では『立命館百年史』の編纂作業の具体的な内容や活

用事例を聞くことができ、今後の活動に役に立つ調査であったことが報告された。本調査内容は建学史料室広報誌第18号に掲載する予定である。

7. 建学史料室広報誌第18号掲載案について

資料5に基づき、各担当の作業内容について確認が行われた。

8. 建学史料室の情報発信について

広報部世耕部長代理より建学史料室に世耕弘一先生のことば（入学式、卒業式の訓示や国会演説等）を「こころに響くことば」（仮題）として発信していくことの提案があった。その方法・期間・場所について次回までに原案を作成して発表される予定である。

9. その他

- ・建学史料室広報誌の投稿要領検討のための参考資料

上崎より資料9の資料提供があり、次回に原案が提出される予定である。現在建学史料室の広報誌がホームページ上で閲覧できるようになっているが、ホームページへの掲載許可を事前にいただく必要があるということが主な内容である。

- ・アーカイヴズ関係洋書の寄贈申し出とその後の動きについて

田窪より、安澤秀一氏（日本のアーカイヴズ研究の先駆者）の蔵書1200冊（洋書）の寄贈申し出があったとの報告があった。図書館ではリストと理由書があれば検討するとのことである。

- ・次回の勉強会は9月に行う予定であることが確認された。

（文責：酒勾 康裕）

（7）第7回勉強会（平成26年10月25日）

日時：2014年10月25日（土） 14時30分～15時50分

会場：東大阪キャンパス 本館4階 第3会議室

出席者：田中栄二、澤田和典、伊東徹、近藤明子、木村道子、荒木康彦

増田大三、上崎哉、藪下信幸、稲葉浩幸、鈴木拓也、酒勾康裕、富岡勝

田窪直規（記録）、三木一司（司会）

欠席者：西尾さかえ、西村広光、中村佳嗣、中村雅行、奥埜綾子、井田泰人

配布資料

- ・ 第7回勉強会レジュメ（P.1～P.5）
- ・ 第6回勉強会議事録
- ・ 2014年度の調査・計画（案）から担当表：資料①
- ・ 文献報告 朝日崇『実践 アーカイブ・マネジメント ―自治体・企業・学園の実務―』（出版文化社、2011年）から「第三章 アーカイブを実践してみよう」の後半（126頁～159頁）：資料③
- ・ 「今後10年間で実施する予定の大きなイベント」（原案）：資料⑦
- ・ 建学史料室の情報発信（案）：資料⑧
- ・ 第8回からの勉強会で扱う文献について（提案）
- ・ 文献候補の内容見本（第8回～第11回）
- ・ 甲南学園学園史資料室調査について
- ・ 近畿大学建学史料室著作権規定（案）
- ・ 『関西教育学会年報』第38号 2014年
近畿大学の大学アーカイブズ構築に向けた基礎的研究 近畿大学 富岡 勝

議題

1. 第6回勉強会議事録の確認
特に指摘点無し。後で指摘点を気づいた場合は、史料室に連絡することになった。
2. 学内校史関連資料現況調査の方法について（一部修正）
富岡教授から以下の提案があった。
 - ・ 史資料調査を11月から3月の間に複数回行い、それで分かったことを報告書にまとめる(来年度の9月めどに)
 - ・ 調査場所に18号館6Fを新たに加える。
3. 文献報告
文献内容につき、藪下准教授より資料③に基づき以下の2点の報告がなされた。
 - ・ アーカイブズ構築の作業手順が5つあるうち、今回は1-3までを取り上げたが、今回は4・5を取り上げる。4はデジタルアーカイブの扱いについてであり、5はアーカイブ化の仕上げ、整理再配置、メンテナンスについてである。
 - ・ 5つの作業手順の次には、アーカイブズ構築のコストとその見積もり、スケジュールについて記されている。なお、富岡教授から、次回以降に使用する文献の提案があった。

4. 甲南学園学園史資料室調査の報告（2014年9月3日）の報告
三木准教授から以下の報告があった。
 - ・ 調査は富岡教授、酒匂准教授とともに行い、約2時間半。
 - ・ 調査内容は史料室担当者へのインタビューと資料庫見学。

5. 学内研究会（2014年12月20日）について
富岡教授から以下の報告があった。
 - ・ ブロッサムカフェ3FルームAで10：30-12：10の間に開催。
 - ・ 対象者は本学教職員
 - ・ 立命館大学史資料室の方に、具体レベルに踏み込んだ話をしていただく。

6. 建学史料室広報誌投稿要領の検討
上崎教授から、他大学の紀要や学会誌の投稿容量などを参考に、案が提示された。これについては引き続き検討することになった。

7. 今後の長期計画について
富岡教授から資料⑦に基づき、本学百周年に関連して、記念講演会の開催、『百年史』の刊行、校史関係資料のデジタル化という案が提出され、引き続き検討することになった。

8. 建学史料室の情報発信について
木村史料室員から資料⑧に基づき、今までの近畿大学のHP情報発信に加えて、**Twitter**や**Facebook**を利用した情報発信を検討していることが報告された。

9. その他
木村史料室員から、追手門学院で開催される「自校教育の展開」という講演会の案内があった。
田中史料室長から、澤田和典氏が史料室の専任職員になったことが報告された。
富岡教授から、学内研究費による研究成果に基づく論文が披露された。

（文責：田窪 直規）

（8）第8回勉強会（平成27年2月9日）

日時：2015年2月9日（月） 15時30分～16時30分

会場：東大阪キャンパス 本館4階 第3会議室

出席者：田中栄二、澤田和典、西尾さかえ、西村広光、中村佳嗣、伊東徹、奥埜綾子、
近藤明子、木村道子、荒木康彦、増田大三、上崎哉、藪下信幸、鈴木拓也、
富岡勝（記録）、井田泰人（司会）、三木一司
欠席者：中村雅行、稲葉浩幸、田窪直規、酒勾康裕

配布資料

資料1 第8回勉強会レジュメ（P.1～P.4）

資料2 第7回勉強会議事録

資料3 第2回・第3回総務部史資料現況調査報告

資料4 文献報告 菅真城『大学アーカイブズの世界』（大阪大学出版会、2013年）より「第
1章 大学アーカイブズの理念的研究」

資料5 日本大学専門学校関係の公文書（『日本大学百年史 第四巻』より）

資料6 研究プロジェクト成果報告書 構成案（2015年2月9日現在）

議題

1. 第7回勉強会議事録の確認（資料2）

下記の語句について修正した。

議題2の名称： 関連資料 → 関連史資

議題7の3行目：校史関係資料 → 校史関係史資料

議題9の2行目：追手門学院 → 追手門学院大学

2. 2014年度学内史資料の現況調査実施分の振り返りと残りの計画について

藪下から第2回・第3回総務部史資料現況調査に関する報告が資料3に基づき行われた。

富岡から資料1に基づき、2014年度分の現況調査の実施状況の報告、今後の活動計画の
提案、資料5の紹介があった。

前回決定された本プロジェクトの調査・研究期間の延長（2015年9月末まで）が確認され
た。

資料1に訂正があった。

3頁2行目： 校史関連の → 校史関係の

3頁11行目： 「甲南学園調査報告記事を広報誌第19号へ投稿」を追加

3. 学内研究会（2014年12月20日）の振り返り

上崎より、学内研究会の実施報告があり、出席者間で感想の交流がなされた。

学内研究会の録音の書き起こしに関する手順について富岡から提案があり、確認された。

4. 文献報告

文献内容につき、富岡より資料4に基づき報告がなされた。大学アーカイブズの理念を改めて考えると、「管理運営」と「教育研究」の両面の史資料収集が課題となることがこの文献を読むことで再確認された。

5. 今後の長期計画について

第7回勉強会で出た今後の長期計画に関する意見が紹介され、更に検討を加えようと話し合った。大学の百周年事業のなかで百年史編纂がどのようなものになるのかが今後大学全体で検討されるであろうが、その動向を踏まえながら、今後の計画を考えていくことが必要であることが改めて確認された。

6. 建学史料室広報誌投稿要領の検討

第7回に続く検討を今回予定していたが、次回勉強会で実施することとなった。

7. 建学史料室の情報発信について

第7回に続く検討を今回予定していたが、次回勉強会で実施することとなった。

8. 調査・研究報告冊子について

富岡より資料6に基づき、内容構成1次案が提案された。冊子の大きさはA4判、wordでレイアウトを作成し、データ入稿することが確認された。

研究報告冊子を9月に完成させ、配付する予定が確認された。

研究報告冊子は大学のリポジトリで一般公開できるようにすることを目指すこと、そのために内容を関係部署に緊密に相談しながら編集作業をしていくことが確認された。

資料6の一部訂正があった。

1行目：第9回 → 第8回

（文責：富岡 勝）

（9）第9回勉強会

日時：2015年6月13日（土） 13時30分～14時30分

会場：東大阪キャンパス 本館4階 第3会議室

出席者：田中栄二、澤田和典、西尾さかえ、西村広光、中村雅行、伊東徹、奥埜綾子、
近藤明子、木村道子、荒木康彦、増田大三、上崎哉、藪下信幸（記録）、鈴木拓也、

酒匂康裕、富岡勝（司会）、田窪直規、井田泰人

欠席者：中村佳嗣、稲葉浩幸、三木一司

配布資料

- 資料1 第9回勉強会レジュメ（P.1～P.2）
- 資料2 第8回勉強会議事録
- 資料3 平成26年度総務部・管理部所蔵資料調査における成果と今後の課題について
- 資料4 広報部所蔵資料現況調査報告
- 資料5 中央図書館調査の成果と今後の課題
- 資料6 学生部・総務部校友会所蔵資料現況調査報告
- 資料7 校史関係の学外の史資料調査
- 資料8 学外訪問調査報告
- 資料9 建学史料室研究プロジェクト「近畿大学の大学アーカイブズと校史関係史資料の収集・整理に関する調査・研究成果報告書 構成案b
- 資料10 建学史料室広報誌 No.20 掲載(案)
- 資料11 近畿大学建学史料室著作権規程(案)
- 資料12 広報資料 「歴史ロマン紀行」番組内容

議題

1. 前回勉強会記録の確認（資料2）
2. 2014年度学内史資料の現況調査の報告と今後の課題

下記の構成で、各自約4～5分程度で学内外史資料調査の現況報告が行われ、これらの報告を骨子として議題3.の研究報告冊子を作成することが確認された。

総務部・管理部調査（資料3）	藪下
広報部調査（資料4）	鈴木
九州地区調査（1月28・29日実施）	澤田
中央図書館調査（資料5）	井田
校友会・学生部調査（資料6）	井田
学外史資料調査（資料7）	田窪
学外訪問調査（資料8）	酒匂
学内研究会等	上崎

各報告後の質疑応答では、史資料リストの作成において公文書のオリジナルと控えとの区別を明確にすることや、史資料リスト作成作業を標準化するためにアーキビスト、または大学アーカイヴズの実務担当者による講演会実施の提案などがなされた。

3. 2014年度調査・研究報告冊子の編集について（資料9）

富岡から、2014年度における史資料調査のリストが膨大な量に上り、冊子の頁数を抑えるために各班の現況調査報告文章は約1600字程度に収めることが提案された。また、今回の冊子では全調査リストを俯瞰的に概観出来ることが重要であるとの見解が提示された。

4. 広報誌『A Way of Life』20号掲載案について（資料10）

建学史料室の木村より10月1日発行予定の広報誌の原稿締切日の周知がなされ、これに基づき各項目の執筆担当および写真掲載の有無についての協議が行われた。

5. 建学史料室広報誌投稿要領の検討（資料11）

上崎より、大学ホームページ掲載を念頭においた建学史料室著作権規程案についての報告があった。これに対し、別途広報誌への「投稿規程」を作成すべきではないかとの意見が出た。

6. 広報活動報告

荒木より、4月27日に上梓した『世耕弘一とその時代』の書籍紹介がなされ、次いで建学史料室の澤田より、7月からe o光チャンネルの「歴史ろまん紀行」で世耕弘一先生のに関する番組が放映されるとの案内（資料12）がなされた。

7. 今回の調査時期と研究の名称、および今後の長期計画について

今回の調査時期と研究の名称は、下記のように決定した。

調査時期：平成25年10月～平成27年9月

研究名称：「近畿大学の大学アーカイヴズと校史関係史資料の収集・整理に関する調査・研究」

10月以降の具体的計画や今後の長期計画については、次回勉強会で検討することとした。文献報告も次回の勉強会で実施することとした。

（文責：藪下 伸幸）

3 研究プロジェクト従事者一覧

(所属は平成27年9月現在)

氏名	所属	主な研究分野
研究代表者		
増田 大三	副学長・経営学部教授・建学史料室研究員	商学
研究従事者（五十音順）		
井田 泰人	短期大学部教授・建学史料室研究員	経営史
稲葉 浩幸	経営学部教授・建学史料室研究員	保険論
上崎 哉	法学部教授・建学史料室研究員	行政学
酒匂 康裕	文芸学部准教授・建学史料室研究員	韓国語教育
鈴木 拓也	文芸学部教授・建学史料室研究員	日本古代史
田窪 直規	短期大学部教授・建学史料室研究員	図書館情報学
富岡 勝	教職教育部准教授・建学史料室研究員	日本教育史
三木 一司	九州短期大学教授・建学史料室研究員	日本教育史
藪下 信幸	経済学部准教授・建学史料室研究員	商業史
調査・研究協力者（五十音順）		
荒木 康彦	名誉教授・建学史料室研究員	
伊東 徹	入学センター高大連携課・建学史料室	
奥埜 綾子	管理部用度課・建学史料室	
木村 道子	建学史料室	
近藤 明子	中央図書館事務部・建学史料室（平成26年4月から）	
澤田 和典	建学史料室	
田中 栄二	理事・管理部長・建学史料室長	
寺尾 隆	中央図書館事務部・建学史料室（平成26年3月まで）	
中村 雅行	生物理工学部・建学史料室	
中村 佳嗣	附属新宮高等学校中学校事務長・建学史料室	
西尾 さかえ	建学史料室	
西村 広光	総務部付部長代理（校友課担当）・建学史料室	

